宇管工が給水車を派遣

能登半島地震で七尾市に

宇都宮市管工事業協同組合（中村勝理事長）は、令和6年能登半島地震で被災した石川県七尾市に給水ユニック車を派遣した。黒川平理事、青年部の福富昭部会長と星野祥史理事が七尾東部中学校や田鶴浜地区コミュニティセンターに向かい、200～300人に約2㌧を給水。設備業のプロとしての知識や技術を生かし迅速に対応した。

七尾東部中学校で行った給水作業

黒川、福富、星野の3氏は6日午後9時に組合事務所を出発。7日午前8時半から10時半まで七尾東部中学校、正午から午後12時半まで田鶴浜地区コミュニティセンターで給水活動を実施。給水活動はとちぎボランティアネットワークから紹介された環境防災総合政策研究機構やセカンドハーベスト・ジャパンとともに行った。

黒川理事は「震災後すぐに中村理事長に給水ユニック車の派遣を願い出た。若手技術者に自分の知識を伝授するため、青年部の2人と七尾市に向かうことを決めた。被災者の方々は給水してすぐは遠慮してあまり水を持っていかなかったが、時間が経つと大きな容器を持ってくる人が増えてきた。和ませるため、宇都宮の水も美味しいので味わってくださいと声をかけた」と七尾市に向かった経緯や現地の状況を説明。

続けて「ボールバルブを付けて水圧に関係なく給水できる仕組みを考えた。設備業のプロとして、ペットボトルに水が入れやすい態勢を整えたことで迅速に給水活動ができた」と振り返った。

中村理事長は「3日に黒川理事から連絡があった。道路状況など心配したが、黒川理事なら乗り切ってくれると信じて許可を出した。市上下水道局の意向も確かめ、5日に派遣を最終決定した。要請が来る前に黒川理事が気づき、率先して行くメンバーが集まったことを誇りに思う」と語り、ケガをしなくて良かったと安堵の表情を浮かべた。

黒川理事は阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災、那須水害でのボランティア経験があるという。

活躍する給水車の状況を写真で確認する中村理事長（左）と黒川理事